

副市長・総務担当部長会議の運営方法等の調査結果（概要）

1 見直しの必要性について（問1）

- 感じている 12市（「会議の役割が不明確」「会議時間が長い」）
○感じていない 7市

2 どの部分の見直しが必要か

(1) 7月開催（問2（1））

①手続き 2市

- ・会議当日に議論する議題の絞り込み（再提案議題は異論なければ一括採決）

②議題審議 10市

- ・一括採決分を除く議題のみ個別議論し時間短縮を
- ・議題審議は新規提出項目のみとし、再提出項目は提案市が必要がある場合のみ
- ・事前に議題への意見の有無を照会し、全市がなければ協議を簡略化
- ・議題送付時に賛否の集約をし意見等のある議題に審議を集中（意見なしは採決のみ）
- ・議題の朗読の省略
- ・議題の審議は一律ではなくメリハリを。空いた時間は開催市がある程度自由に
- ・開始を正午とし昼食後に議題審議。視察等は開催市の判断に（懇親会は従来通り）

③閉会后 6市

- ・視察、講演会、勉強会等は当番市の意向を踏まえ決定
- ・視察は開催市の負担が大きいため廃止し、引き続き懇親会（意見交換会）に
- ・開催市の取り組みや経済界の方の話なども期待
- ・各市が抱えている課題の意見交換（非公開）や講演会に空いた時間を充てる
- ・午後から開催し、議題が終了したら解散。視察・懇親会はなし。 など

④その他 1

(2) 1月開催（問2（2））

①手続き 2市 ・（1）に同じ②議題審議 10市 ・（1）に同じ③閉会后 4市

- ・情報交換の場を設ける
- ・短くてもいいので情報交換のため懇親の場を設けてほしい

④その他 1市

- ・総務担当部長も別室で会議をしては（情報交換）

(3) 出席者の範囲は（問2（3））

○今のまま 9市

- ・副市長、部長同士の意見交換の場として懇親会のある7月は今のままでよい
- ・総務部長が会議に参加する意義は少ない

○その他 3市

- ・7月は今のまま、1月は部長同士の意見交換を設定しないのであれば副市長と随行
- ・総務担当部長あるいは総務企画担当課長による審議でよい
- ・会議の名称が変わらないのであれば、今のままでよいが、出席者は各市の判断

3 自由記載

○詳細な情報交換や関係市による研究会が必要な場合は、提案市を中心に各市の担当課が集まるなど、テーマに応じてフレキシブルに対応。（当該会議はそのためのきっかけの場）

○当該会議の役割は、市長会総会の効率的な運営を図るため、提出議題等を事前に慎重審議するものであり、「副市長会」という組織が存在するわけではない。したがって、講演会等の開催は必要ない。議題の審議方法を見直すことにより時間短縮を図ることがよい。

○議題審議は現状の方法でも十分意義がある。会議閉会後の講演会などは別途市長会総会も含めて市長を対象とした場の設定について検討する中で、副市長の参加も可能としては。

○駒ヶ根市さんの提案の趣旨は理解。活かせることがあれば検討を。議題審議は大変参考になるので、一定の時間を確保してほしい。

○市長会本会の事前審査という本来の位置づけは大切だが、特に議論のない話題について時間を費やす必要もない。メリハリをつける見直しを。

○「事務局の会議運営等に対する考え方」に示された市長会事務局の見解は妥当。大筋は変更する必要を感じない。

○議題審議について、文書による協議では全市の総意を取りまとめるために時間がかかるので、事務局案に賛成。

○1月の懇親会について、事務局の負担軽減も検討しながら復活を検討してほしい。

○お菓子は予算の範囲で当番制で2市くらいから提供しては（話題提供にもなる）

○駒ヶ根市副市長さんからの提案は、前回の副市長・総務担当部長会議でお示した資料のとおり。

○平成25年度の見直しを尊重し懇親会はなしでよい。